

めでいかすとり *Médicastre*



「丸池様（遊佐町）」

鶴岡地区医師会勉強会抄録

日 時：平成25年10月11日(金) 19：00～
場 所：鶴岡地区医師会 3 階講堂

『最新の放射線治療』

山形大学医学部附属病院
がん臨床センター

センター長 根本 建二 先生

かつての放射線治療は正常組織にも広く放射線が当たってしまうことが多く、「副作用は強いが効かない治療」という印象を持たれていた。しかし最近の技術的進歩の結果、治療成績は飛躍的に向上し、QOLを維持して治癒を狙える、体に優しいがん治療としてその重要性は急速に高まっている。根治的な治療以外にも、手術や抗がん剤など他の治療と組み合わせることで治療成績の改善が可能である。また、治癒が困難な場合でも、転移による疼痛緩和、腫瘍出血の止血、圧迫症状の解除、脳転移によるQOLの低下阻止など、緩和目的の治療も広く行われている。

放射線治療を受けるがん患者数は1995年頃までは国内で新規に10万人以下であったが、2009年の調査では20万人と急増している。しかし、欧米ではがん患者の半数以上が放射線治療を受けているのに比べ、日本ではがん患者3～4人に1人となっている。放射線治療が利用可能な病院は全国で約700あり、人口あたりの設置数は世界的でもトップクラスである。業務が複雑化しており放射線腫瘍医、放射線技師、医学物理士、看護師からなるチーム医療が必須となってきた。

現在はリニアックでのX線を用いた放射線治療が主流であるが、最近日本を中心に陽子、炭素、中性子など粒子線を用いた治療装置も増加傾向である。荷電粒子線ではエネルギーごとに決まった一定の深さで集中的に電離が起きる(Bragg peak)。このピークの深さを制御することで“がんに絞った”DNA破壊が可能となる。もちろんX線でも多方向から“がん”に放射線を集中させることで線量集中は可能であるが、一定以上の大きさの病変を治療する際には、粒子線の方が有利となる。加えて、重粒子線では軌跡あたりの電離量がX線や陽子線とくらべて遙かに多く、放射線抵抗性の克服にも有望な手段と考えられている。

山形大学では次世代型重粒子線治療装置の研究開発を開始しているが、完成すれば、消耗品削減による省エネルギー、海外でも簡易に運転可能なイージーメンテナンス、小型化により病院併設可能、世界初のガントリーによる照射など、世界トップの機器が開発される予定である。一方で、建設や維持に巨額のコストがかかり、適応疾患の確定、県境を越えていかに地域で有効活用するかなど解決すべき問題も多い。



観楓会、米寿・喜寿祝い

日 時：平成25年10月18日(金) 19：00～
場 所：マリカ市民ホール

月山が紅葉で色づき始めた頃、ご来賓として山形県医師会会長名代、栗谷義樹県医師会副会長、酒田地区医師会十全堂会長名代、佐藤顕酒田地区医師会十全堂副会長、弁護士の加藤栄先生、社会保険労務士の坂田正昭先生をお招きし、観楓会が開催されました。また、今年から米寿、喜寿を迎えられる先生方の祝賀会も併せてとり行われることとなり、米寿の岡田穆先生（代理で岡田恒人先生が出席）、喜寿の齊藤清子先生、真島靖子先生、残念ながら今回は欠席でしたが林順一先生のお祝いをいたしました。

佐藤孝司先生の司会進行のもと、三原会長の挨拶につづき、県医師会副会長の栗谷先生と酒田地区医師会副会長の佐藤先生のご挨拶があり、引き続き米寿・喜寿会員のご紹介、賀詞、記念品の贈呈が行われました。岡田穆先生の外科医としてのご活躍や体験談の話、齊藤清子先生と真島靖子先生がインターン時代に同じ病院だったことなど興味深いお話も伺いました。その後、福原副会長の乾杯のご発声で賑やかな宴が始まりました。今年の出席者は、来賓4名、会員35名、職員14名の総勢53名で、日頃診療でお忙しい先生方が一同に集い、親睦を深めるよい機会となりました。来年も紅葉を楽しみながら賑やかで楽しい会となるよう、多くの会員の先生方からご参加いただきたいと思います。

在宅サービスセンター所長 工藤 由美



日 時：平成25年9月26日(木) 19：00～
場 所：鶴岡地区医師会 3階講堂

平成25年度 市もの忘れ相談医研修会

鶴岡市 健康福祉部 長寿介護課

百瀬 ちづ子

今回は、認知症診断支援として「長谷川式スケールの活用と評価」を研修内容としたこともあり、もの忘れ相談医（15名）、医療スタッフ（21名）、地域包括支援センター、健康課保健師等総勢81名の参加でした。

三原医師会会長から「認知症への対応は、高齢社会はどうあるべきかを問われている課題でもあり、地域で取り組まなければならないこと」とあいさつがありました。

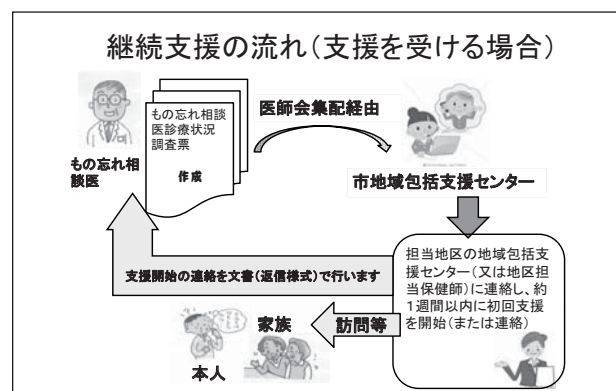
1. 研修1（座長：荘内病院

神経内科医長 丸谷宏先生）

前回（2月26日）の『もの忘れ相談医の目的と役割―地域連携体制の構築―』に引き続き「もの忘れ相談医が参画した早期からの認知症高齢者支援体制」を確認し、もの忘れ相談医支援の構想が説明された。



忘れ相談医診療状況調査票（以下『調査票』）の提出も7医師33件と現状を反映しているとは言えない。そこで、今回『調査票（今後の情報提供・支援欄）』を記入することで、通常診療では時間がかかる「本人・家族への情報提供や生活支援」の必要な方への対応を、地域包括支援センター等につなぐ「支援連絡票」として活用できるよう改定し、活用マニュアルも作成、地域連携体制の構築を進めた。



今年度から開始した「認知症患者家族教室」は丸谷先生のご協力をいただき、参加者約30名であり、その様子から認知症の対応の難しさが垣間見え、継続した支援の必要性を実感したところである。さらに参加勧奨にご協力いただきたい。

2. 研修2（座長：県立鶴岡病院

院長 神田秀人先生）

座長から、認知症は本人の病識がないためアプローチが難しい。薬物療法には限界があり、早期に治療開始していくことが大切と話され、二つの研修を行った。

(1) 長谷川式スケール（HDS-R）の活用と評価について

荘内病院 臨床心理士 柏倉 貢先生

総得点だけでなく、どこで失点しているか、

もの忘れ相談医 支援体制（案）

診療支援

- ① もの忘れ相談医を中心とした認知症診断・治療向上研修会の開催
- ② もの忘れ相談医との認知症診断連携
問診・採血・画像・HDS-Rなどはもの忘れ相談医にお願いし、希望があれば認知症サポート医療機関での診断確認を行い結果報告。
→協立病院・荘内病院・鶴岡病院・三川病院・湯田川リハビリテーション病院の物忘れサポート外来（仮）設置を検討中
- ③ 標準的認知症ケアパスの作成
→来年度から準備委員会発足予定

《初期受診支援と患者家族支援について》

（市から報告）

市保健師が作成し医師に送付される「認知症等に関する相談情報連絡箋（以下『連絡箋』）」の活用は早期治療につながっているが、活用事例は10例あまりと少ない。また、「もの

年齢・教育歴・職歴を考慮して解釈することや検査態度や回答の仕方にも留意すること。得点が高くても“若年性”は要注意であること、HDS-Rは主に言語性記憶を評価しており、失行、遂行機能障害、視空間認知の低下の有無は把握できない。HDS-Rの特性や限界を含め事例紹介しながらわかりやすく説明された。

簡易長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R)の各項目で何をみているか？

- No. 1～3 : 年齢、日時・場所の見当識
- No. 4 : 3単語の記銘 → 即時記銘力
- No. 5 : ひき算(暗算で) → 失算、注意力、作業記憶
- No. 6 : 逆唱 → 注意力、作業記憶
- No. 7 : 3単語の想起 → 遅延再生
ヒントを与えて想起可能かどうか
短期記憶障害の有無をみる
- No. 8 : 5物品の記銘
呼称の際、失語・視覚性失認の有無がわかる
- No. 9 : 語列挙
喚語困難の有無、保続の有無
言語機能の中でも前頭葉機能が関係している

HDS-Rの検査項目の正答率

		中等度AD正答率
今日は何月何日ですか	時間見当識	24%
ここはどこですか	場所見当識	40%
今から言う3語を繰り返す	即時記憶、 言語理解	85%
100-7 繰り返し7 を引く	即時記憶、計算	17%
先程の3語を言ってくだ さい	遅延再生 (エピソード記 憶)	18%
物品の名を言う	手がかり記憶、 失語	83%
野菜の名前を10個	語流暢、自発性	

アルツハイマー型認知症の記銘力低下



(2) 認知症と“うつ”について

武田医院 武田 晶子先生

病院勤務の経験から、認知症とそれを取り巻くお話でした。実際には知能低下がないにもかかわらず、認知症であるかのような症状を示す病態もあり、MRI等検査や長谷川式等



心理検査を実施すること。うつ病は抗うつ剤で症状が改善すること、アルツハイマー病の初期には脳萎縮が確認されない事例、アルツハイマー病の自発低下、無関心がうつ病との鑑別を要すること。硬膜下血腫、正常圧水頭症などの鑑別のための画像診断の重要性などを述べられた。

座長の神田先生は、武田先生と応答しながら、認知症になっても周辺症状への適切な対応により地域で優しく見守る文化や過ごしやすい地域づくりが出来ていくよう、もの忘れ相談医の先生方の力や役割が大きく大切であるとまとめられた。

(3) 情報交換

「家族よりも医療スタッフが気になる人がいるが、家族に伝えられない。今後『調査票』を記入し、地域包括支援センターの支援につなげたい」「日々の診療現場で認知症と思う人が多い。支援につなげるよう意識しているので、今後の対応をスタッフと考えたい」「患者目線を対応していきたい」など『調査票』を活用した地域連携体制の推進に前向きなご意見をいただいた。また、「地域包括支援センターの知名度が低く紹介しにくい」の意見も出された。

最後に認知症対策検討委員会会長齋藤慎先生から『連絡箋』への返信、『調査票』の記載と支援・連携への取り組みにご協力を」と閉会のあいさつをされた。



鶴岡市の認知症対策が推進されるよう今後ともよろしくお願いいたします。

竹田浩洋先生山形県病院協議会特別表彰受賞祝賀会

日 時：平成25年10月23日(水)
場 所：グランド エル・サン

このたび、湯田川温泉リハビリテーション病院前院長竹田浩洋先生が病院の運営を通し、地域医療の発展と向上に寄与された功績により山形県病院協議会特別表彰を受賞され、その祝賀会を開催いたしました。

はじめに武田憲夫院長より、竹田先生のご尽力により鶴岡市がITや地域連携パス、緩和医療などにおいて全国から注目を浴びるようになったこと、竹田先生の心の広さや医療に対する純真さなど先生のお人柄などについて紹介していただきました。

次に三原一郎医師会長より、当医師会が全国のモデルとなる地域を目指して発展していくことができたのは竹田先生のおかげであり、これまでの数々の取組みがこのたびの受賞に繋がったとのことご祝辞をいただきました。

受賞された竹田先生からは、このたびの受賞は全職員の功績により皆さんを代表して受賞したものであり、当病院がリハビリ病院として社会的に貢献してきたことが評価されたこと、当病院設立の経緯や思い出などについてご挨拶をいただきました。

祝宴は土田兼史医師会副会長の乾杯のご発声で始まり、竹田先生の人柄を表わすように和やかな雰囲気の中、出席者は竹田先生との笑談や写真撮影など思い思いに過ごされ、梅津尚男先生の閉会の挨拶でお開きとなりました。

湯田川温泉リハビリテーション病院 菅原 順



CKD市民公開講座「鶴岡天腎祭」

日 時：平成25年10月6日(日) 14：00～
場 所：出羽庄内国際村

第5回市民公開セミナー『鶴岡天腎祭』 ～ 目から鱗！ 腎臓のお話し ～

庄内地区健康管理センター
臨床検査課 田村 安

第5回慢性腎臓病市民公開セミナー「鶴岡天腎祭」が過去最高の約150名の参加者を迎え開催されました。

「慢性腎臓病（CKD）」は、初期には自覚症状がほとんどありません。それがCKDの怖いところで、患者を増加させている原因となっています。また、生活習慣病やメタボリックシンドロームとの関連も深く第2の国民病と言われている病気ですが、十分に知られていないのが現状であり、CKDの早期発見法・治療法・日常生活の注意点などを市民の皆さんに知っていただきたいとの主旨で立ちあげられたセミナーです。

前日までの悪天候が嘘のような絶好の秋晴れに恵まれ、新潟大学腎医学医療センター教授丸山弘樹先生の挨拶で静かにセミナーが開会されました。約2時間に亘って、様々な職種の立場から腎臓病に関連した講演がありました。

○腎臓について「腎臓病の早期発見」

庄内病院 内科医師 安宅 謙先生

○食事療法について

「よくわかる腎臓にやさしい食事」

宮原病院 管理栄養士 奥泉洋子さん

○眼科疾患について

「目を大切に～慢性腎臓病と眼の病気」

福原医院 院長 福原晶子先生

○検査結果の読み方について

「自分でできる腎臓の健康チェック」

庄内地区健康管理センター

臨床検査技師 田村 安

○生活指導について（寸劇）

「検査結果：あなたはそれで大丈夫？」

庄内病院 看護師 菅原千愛さん他
○療法選択について

「これが治療の3本柱

～あなたはどれを選びますか～」

庄内病院 看護師 藤原景子さん

今回は、スタッフの強い要望が叶い〈腎臓と目の病気の関連性〉について、福原晶子先生のご講演を頂くことができました。軽妙なお話の中に中高年以降は、自分の目を自分で守るために年1回は目の検査を受けることの重要性を織り交ぜられ、市民の皆さんの心をガッチリ掴んでおられました。また、私自身もスタッフとしてセミナーに参加し微力ながら、検査現場の目線から尿検査の重要性を訴えることができたのではないかと思います。

最後に慢性腎臓病に関わらず、病気の予防・早期発見の為に生活習慣を見直し、健康診断の重要性と必要に応じて、医療機関を受診して下さいとのメッセージがありました。

来年も、鶴岡地区医師会・鶴岡協立病院・宮原病院・鶴岡市立庄内病院で協力し、市民の皆さんが日頃の健康管理に目を向ける機会を持てるよう、情報発信していきたいと思います。



日 時：平成 25 年 10 月 6 日(日)
場 所：湯の浜カントリークラブ

鶴岡地区医師会ゴルフコンペ

さとう整形外科クリニック
佐藤 慎二

医師会ゴルフコンペ総合優勝ということですが、優勝というのはどんな形でも嬉しいものなのでまずは嬉しく思います。ただ総合優勝は春秋の2回の成績で決められるものなので2回出席できた人しか権利がないこと、成績の算出がダブルペリアなので80前後付近のグロスをだした人が有利ですから、自分の力で勝ち取ったという



よりは運かなと思います。強いていえば80前後をだすように努力したこと、ダブルペリアの隠しホールの当たりがついていたということが勝因でしょうか。身も蓋もない優勝コメントとなってしまいました。これ以上優勝について書くこともないのですがまだ字数がたくさんあまっているので私のゴルフ歴と現状について書いてみようと思います。

私はゴルフ歴だけは異常に長く30年以上になります。5年ほど前に亡くなった父が大のゴルフ好きでした。腕前もなかなかのものだったようでハンデは最高で片手シングルくらいまで

はなっていたようですし、ホールインワン3回アルバトロス2回したことがあると聞いていました。私自身はゴルフに別に興味もなかったのですが、父にしてみればいずれ一緒にラウンドでもしたいと思ったのでしょうか、ゴルフクラブ一式を与えられ、たまに練習場に連れていかれ、たまに朝4時頃叩き起こされ早朝ラウンドに連れていかれましたが、さしてやる気もなく上達はしませんでした。医師になってからはゴルフをすることもほとんどありませんでしたが、34歳の時長岡に勤務していた頃数か月熱をいれてやったのですが、医局より荘内病院整

競技方法：ダブルペリア 打数制限：ダブルパー HDCP上 男：36.0 女：36.0 HDCP下 男：0.0 女：0.0

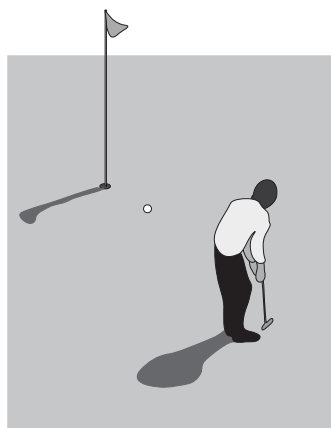
順位	競技者名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優 勝	佐藤 慎二	40	40	80	9.6	70.4
準優勝	五十嵐敬郎	39	40	79	6.0	73.0
3 位	菅井 健	49	51	100	26.4	73.6

◆平成25年度年間総合優勝 佐藤 慎二（春季 準優勝 秋季 優勝）

形外科のトップとしていくように35歳で命じられ、とてもゴルフにうつつを抜かす暇もなく頓挫しました。46歳で開業させていただき、しばらくは仕事に専念せざるを得なく、病院時代の強烈なストレスとはまた別種のストレスで63kgの体重が未知の世界の70kgに到達したものでこのままではやばいなと感じました。最初は、走るかと思って走ったのですがこれは体に悪いなと思いやめまして、去年の8月からゴルフを再開しました。そこからは異常にはまってしまうしました。真冬も練習場で打ち込み、時間ができればゴルフのできる新潟や群馬に遠征したりしていました。体が弱っていたのに練習量

だけはすごかったので左の肋骨1本、右は2本疲労骨折してしまい、練習量を落とさざるを得なかったのが誤算でした。今後の夢は庄内のチャンピオンになること、エージシュートを達成することです。どちらも達成不可能に近い夢ですが、庄内に来てから10年目頃より夢もなくなっていたので、まあまあ健全になれたのかなと思います。

こんないかれた人と月1ラウンドしていただいている鶴岡地区医師会ゴルフ同好会の皆さまありがとうございます。鶴岡地区医師会から初のプロゴルファーが誕生するのを応援してください。



日 時：平成25年10月27日(日)
場 所：日本海一円

平成25年度医師会秋季釣り大会

つり同好会会長 佐藤 洋司

大荒れの釣り大会

伊豆大島に大きな被害をもたらした台風26号が去った後、その後を追うかのように台風27号が接近してきていたが熱帯低気圧になった。でもその余波が強くて天気予報では「26日(土)気圧の谷が通過し西高東低の気圧配置となるため曇で朝晩は雨の降る所が多い見込みで北西の風が強く海上の波は2m、後に2.5m。27日(日)西から高気圧に覆われるため曇で昼ごろまで雨の降る所が多い見込みで波の高さは3mで西の風がやや強い」だった。確か以前に会長が私に変わってから釣り大会は荒れた日が多いと言われたものだが、こんな大荒れは久しぶりである。

いつも釣り大会の前には下準備がある。先ず撒餌用オキアミとコアミの1ブロックずつを解凍してからミキサーにかけて撒餌を作る。また数日前に生きた中エビを買ってもらって生けすに放しておく。勿論山の冷たい水をチョロチョロ流しておかないと死んでしまう。前日にはイソメと桜エビの冷凍を買ってきて、撒餌用バケツに自分の畑の上質な濁り砂をいれて、これで準備OKだ。

朝6時に起きて前夜作った冷たいおにぎりを食べてから、雨の中鼠ヶ関港の釣り場に向かう。こんな日には勿論誰もいないのだが、一番乗りだと奮い立たせて雨具を着て竿を出した。西風が強く水は濁り潮の流れも速くいろんなものが流れてくる。船の影に陣取ったが竿先が震えて定まらない。それでも雨が小降りになりたまに針を飲み込んだ篠小鯛が来たりアジが来たりしたがとても釣りにはならない。せっかくの活きエビもあまり効果がなくイソメが一番だ。どうしたものかと思案中にM君が来て竿を出したので、そのまま続ける。10時頃息子も到着し愛用の竿を貸したが餌を入れるとすぐに篠小鯛が釣れる。これも Beginner's luckと言うのかな。青空が見えたと思ったらまた大雨となり冷たい。そうこうしている間に昼になり雨も降ってきたので納竿した。息子に獲物を見せると、こんな日はこれでもひょっとして優勝かもと言われる。

一眠りして3時過ぎに医師会に行くと、浮かない顔の面々が集まっていて、今日は全然駄目だったとのこと。釣果も少なくさよりやフグ、カニが釣れたり、ばい貝がひっかかりたりしていた。でもA君はこれでどうだと自信ありげに獲物を提出した。確かに篠小鯛などいろいろ釣ってきていたし、アブラコも大きくて18cmもあった。だが点数計算の結果は僅差で私の優勝となった。

それでは結果を報告します。

(敬称略)

優 勝	佐藤 洋司	珍 魚 賞	松岡 匡樹 (魚でなくばい貝)
二 位	荒木 建多	大 物 賞	荒木 建多 (アブラコ18cm)
三 位	佐藤 元昭	五 目 賞	佐藤 元昭 (5種)
ラッキー 7	佐藤 孝司	外 道 賞	吉住 忠 (かに)
B B	清和 聡彦		



飛切と由良アナゴ わたしのお気に入り

11月になり熱燗が恋しい季節となりました。庄内にはうまい日本酒がたくさんあると思いますが、私のお気に入りには大山（加藤喜八郎酒造）の“飛切”です。お手頃価格で、冷でも熱燗でもいける日本酒です。“飛切のヒレ酒”もなかなか良いです。寿司の長三郎さんには“飛切の冷たいヒレ酒”というものがあります。おいしいのですがたくさん飲む酒ではないように思います。さて、酒の肴はなんでしょうか？“由良アナゴ”です。アナゴとはいうが正式名はクロヌタウナギ（クロメクラウナギ）だそうです。秋田では棒アナゴと呼ばれており、先日の秘密のケンミンSHOWに出ていました。鶴岡でメニューにある店は少ないようです。すこしクセがあるので好き嫌いがあると思います。ビール、白ワインにはあいません。焼酎、赤ワインでも大丈夫ですが、日本酒が一番です。

（石原 良）



第 9 回健康管理センター講演会

日 時：平成25年10月19日(土) 14：00～

場 所：荘内地区健康管理センター

今回で9回目を数える健康管理センター講演会を10月19日午後2時から開催しました。

天候が良く絶好の行楽日和の中ではありませんでしたが、85名の方より参加いただき、2題の講演を行いました。

初めに、介護老人保健施設の職員で理学療法士の佐藤恵太さんより『いつまでも生き活きと！ 知ろう・防ごう「ロコモティブシンドローム」』と題した講演を行ってもらいました。

ロコモティブシンドロームとは骨や関節、筋肉など体を支えたり動かしている運動器の機能が低下し、要介護や寝たきりになるリスクが高い状態であるとの説明がありました。ロコモティブシンドロームになっていないか具体例をあげたチェック、ロコチェックでは、7つのチェック項目のうちひとつでも当てはまれば整形外科医を受診してほしいとのことでした。また、予防するための体操の説明では、講師が実演しながら参加者と一緒に体操を行い、みなさん真剣に取り組んでいました。

ロコモティブシンドロームを予防するためには運動はもちろんですが、食事や睡眠も重要な要素であり、これらをきちんとすることでメタボリックシンドロームも予防できるということが印象的でした。

講師の明るく親しみやすい表情と分かりやすい説明に、終始和やかな講演になりました。

次に、庄内保健所所長 松田徹先生より『もっと知ってほしい大腸がん ～増えてるっ

て知ってますか～』と題し講演を頂きました。

大腸がんに関しては、県医師会地域保健事業として大腸がん検診精検受診率向上を目的とした事業を行っていることもあり、多くの方に聴いていただきたい講演でした。全国的に大腸がんは女性のがん死亡原因の第1位になるなど近年増加しており、自覚症状が少ないため進行した状態で見つかることが多いとのことでした。検診を毎年受診し早期発見が重要ですが、検診を受診し陽性になっても約3割の方は精密検査を受診していないようです。進行度が低いほど5年生存率が長くなってきており、この方々の精密検査受診率を向上させればより多くの命を救えるとのことでした。

松田先生は大腸がんのことだけでなく、他のがんや、その検診のことなど、幅広い話題について、医師としての体験も交えて、とてもユーモラスにお話し下さり終始笑いが絶えない講演となりました。

今回、職員として初めて講演会に参加しましたが、お客様の真剣な表情、中にはメモを取りながら講演を聞いている姿を見て、改めて健康に対する意識の高まりを肌で感じました。

センター講演会は、当センターを利用したことがない方にも施設を知ってもらう絶好の機会です。今後も充実した講演会を企画することで、より多くの方に足を運んでもらい、健診受診率向上につなげていきたいと思っています。

事業推進課 船見 慎太郎

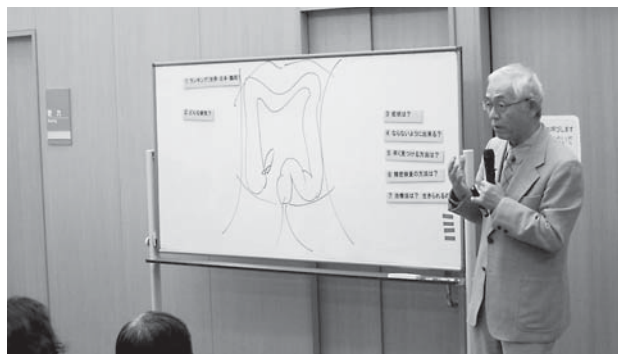


表 紙

「丸池様（遊佐町）」

佐藤 耕一

丸池は、周囲をうっそうとした樹木に囲まれた神秘的な環境にある。湧き水を水源とする池で、水中の倒木が腐らないほどの清水で、水面はエメラルドグリーンに映えている。信仰の対象ともなって神聖な場所とされ、地元では「丸池様」と呼んでいる。国指定史跡。水面の反射光を抑えるためPLフィルターを使用して撮影した。

編 集 後 記

猛暑が続きこのまま冬も暖くなるのではとの期待もはずれ、やはり急に寒くなりました。去年は12月にもう雪がふり、飛行機がオーバーランしたり、電車が止まったりと東京との往復に苦労したのを思い出します。車のイベントも一段落し、メンテナンスの時期に入ります。また11月3日には、20数年ぶりに学生時代のバンドが再結成しライブをしてきました。久しぶりにバンドの仲間と会えてとても楽しい時を過ごし、日頃のストレスの発散になりました。今後は車だけではなく、音楽活動にも力を入れていこうと思います。

今月号には、10月11日に開催された医師会勉強会の抄録が掲載してあります。今回が100回目とすることで、山形大学医学部附属病院 がん臨床センター センター長 根本 建二先生に「最新の放射線治療について」という演題でご講演頂きました。近年の放射線癌治療の進歩には驚きました。重粒子線を使えば、2回で治療が終了し、部位によっては外科的治療より有効なようです。設備の充実や高額な患者負担などが本格的な普及に向けての大きなハードルとなっているようですが、頭頸部領域の癌治療でも、機能温存は非常に重要ですので今後期待されます。

学術広報委員長も残すところ5ヶ月もう少しです。11月17日(日)午後1時より荘内病院3階講堂にて庄内医師懇談会が開催されます。多くの先生の参加をお待ちしております。

(伊藤 茂彦)

編集委員：伊藤 茂彦・福原 晶子・石原 良・中村 秀幸・斎藤 高志・今立 明宏

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jpURL <http://www.tsuruoka-med.jp>